

令和7年度自己評価結果公表シート

作成 大阪商業大学附属幼稚園

1. 本園の教育目標

学校法人谷岡学園の建学の理念“世に役立つ人物の養成”を基礎として、“人間形成の土台づくり”を進めるため、園児達の遊びや生活を通した教育活動を行う。

- ① 豊かなこころを育てる・・・品格ある立派な人間に育てるために！
- ② 小学校につながる力を育てる・・・小学校でますます学力が向上するように！
- ③ やわらか頭を育てる・・・自分の頭で考える力を育てるために！
- ④ 楽しい生き方ができる・・・自己の力を効果的に発揮できるように！

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・建学の理念をもとにした教育を推進するため、以下の五点に重点を置き、教育内容の充実、改善に努める。
 - (1) 建学の理念、幼稚園教育要領が生きた生活や遊びを展開する。
 - (2) 主張することができる力と聞くことができる力を養い、小学校につながる力を育て、人間形成の土台づくりとしての幼児教育を実践する。
 - (3) 豊かな学びと体験を生む環境を整え、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」並びに心情、意欲、態度を育てながら、学ぶ力、考える力及びコミュニケーション力を養い、仲間関係だけでなく、人同士の関係を豊かにする保育を実践する。
 - (4) キンダーカウンセラーや行政機関等との連携を図り、支援を要する園児への取り組みを継続し、保護者の相談等への対応を充実する。
 - (5) 保護者との連携を通して、園児と保護者の満足度を向上させる。
- ・教員の資質向上を目指し、外部研修への積極的参加及び園内研修の強化に努める。
- ・教員自らが保護者の意見も参考にしながら、保育の内容の再確認と見直しを行うなど、PDCAサイクルを廻しながら自己の教育力向上を図る。
- ・教育方針に対する保護者の理解並びに保護者との連携、協力を深めることにより教育効果を高め、園児が基本的生活習慣（生活リズムの確立、TPOの感覚、内省する習慣、我慢する気持ち、踏んばる力）を身につけることで、園児が育つ幼稚園を目指す。
- ・高校生や大人と園児の交流を深め、園児の生活の幅を広げ、園児の一層の成長につなげるため、地域や系列校との連携に取り組む。
- ・保育の質向上に資するため、外部有識者や保護者の代表を招いた公開保育に取り組む。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
幼稚園の教育課程の編成・実施に関し、教職員間の共通理解を図る。	幼稚園教育要領を建学の理念及び教育方針とすり合わせながら、保育の有機的な連携を図るとともに、保育の可視化に努めた。また、教員による日々の振り返りを行い、ICTも活用し、教育に関する情報の共有に努めた。 新しく編成したカリキュラムをベースとして、幼稚園教育要領と建学の理念等との接点を意識しながら、より良い教育課程の編成・実施に向けて取り組んでいく。

建学の理念、幼稚園教育要領、教育課程、園児の実態等を基に指導計画を作成する。	園児の実態を踏まえ、学びや育ちを保証できるように職員会議や学年別会議において教員が意見交換を行いながら、各学年のつながりを意識し、建学の理念及び幼稚園教育要領を踏まえた指導計画の作成に努めた。 引き続き、「カリキュラムマップ」も活用しながら、指導計画の充実に取り組んでいく。
教職員間の保育に対する共通理解を深めるため、園内研修を充実させ、研究会等へも積極的に参加し、教員一人一人の資質の向上に努める。	オンラインでの研修も含め外部研修等へ積極的に参加し、その内容を園内研修で報告するなど、日々の保育の参考となるよう情報共有を推進した。 テーマを設定した園内研修を複数回実施し、教職員間で意見交換を行い、互いに刺激し合いながら、自己研鑽にも取り組んだ。 また、公開保育を実施し、外部評価者による教育参観後、評価できる点や意見を聴取し、意見交換を行うことで、今後の教育の質向上を図った。 さらに、支援を要する園児についての情報を全教職員間で共有し、カウンセラーの助言も取り入れ、当該園児に対する共通理解を深め、見通しを持った保育に取り組んだ。
園だよりや子育てサロン、公式WEBサイト（新着情報、ブログ）などを通して幼稚園の情報を発信していく。	保護者との懇談、保育参観及び子育てサロン等を開催し、教育方針及び園児の学びや育ちを定期的に保護者に伝えるとともに、保護者の思いや考えを受け止める機会としても活用した。 個人情報の管理に配慮しながら、公式WEBサイトやInstagram を利用し、園児の幼稚園での生活や行事の様子等の情報発信に努めた。 保護者への情報伝達用の「れんらくアプリ」を活用し、保護者への連絡を迅速且つ効率的に行うとともに、同システムにより通園バスの位置をリアルタイムで発信し、通園バス利用者のバス停での待ち時間の短縮を図るなど、保護者の利便性の向上に努めた。 また、保護者会の連絡にも「れんらくアプリ」を活用し、活発な保護者会活動の一助とした。
安全に配慮した環境づくり（施設・設備の改善）を進める。	保育環境の整備のため、随時、遊具の点検を実施し、必要に応じて補修した。 機械警備を継続するとともに、園舎内外の補修・改善を行った。本園の正門と裏門門扉のオートロック式電気錠付門扉により、外部からの不審者の侵入を防ぎ、園生活の安全を確保するとともに、分園についても同様のオートロック式電気錠付門扉により、安全確保に努めた。また、防犯カメラにより、園周辺の監視も行った。 さらに、通園バスに設置したドライブレコーダーの記録をもとに、バス運行の安全性の向上を図った。 引き続き、安全に配慮した環境を整え、園児の安全を確保していく。

地域・系列校との連携を進める。	地域との連携では、園児達が地元小学校を訪問し、園児と小学生の交流を図った。 系列校との連携では、大阪商業大学高等学校デザイン美術コースの生徒による園児の意見を取り入れた玩具（木製パズル）の制作を実施し、園児と生徒の交流を行った。 また、大阪緑涼高等学校保育系進学コースの生徒が来園し、園児との交流を行った。
新しい未就園児保育及び預かり保育施設を有効に活用する。	分園「そよかぜ」を拠点として、未就園児保育（プレスクール）と預かり保育を実施した。 プレスクールの利用者は、翌年度には新入園の募集対象となるため、園児確保の観点から新しい施設の利用満足度を上げるよう、広々とした施設を活かして、ゆったりとした保育に努めた。 引き続き、「そよかぜ」の有効活用を図り、利用者の満足度向上と園児獲得に取り組んでいく。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・幼稚園教育要領及び幼稚園の教育方針を意識し、教員間の情報共有にも努め、園児一人一人を見つめる教育を実践した。また、園児が達成感や自己肯定感を感じられるよう、園児の思いや考えを大切にし、園児を中心に置いた教育を実践した。 ・園児が自らの思いや考えを伝える話し合いの時間を大切にして、園児同士、園児と大人の関わりも意識し、コミュニケーション力や仲間意識の涵養に努めた。 ・文庫を活用して、園児が多くの絵本に出会う機会を創出し、物語に入り込む集中力やイメージを広げる想像力を養うとともに、情緒豊かなこころの育成に努めた。 ・分園「そよかぜ」を活用し、預かり保育及び未就園児保育（プレスクール）の質の向上に努めた。 ・生き物の飼育、野菜の栽培など、さまざまな日々の園生活における体験や遊びを通して五感に働きかけ、建学の理念を意識した質の高い教育を展開することにより、園児の学びや育ちに向かう心情・意欲・態度を育んだ。 ・火災、地震、不審者の侵入を想定した三種の避難訓練を行い、園児に対して「自分の命は自分で守る」ことができるように指導し、日々の生活における危険回避力を育んだ。 ・教員に研修会やセミナーなどへの参加を促し、自己研鑽の一助とするとともに、園内で研修内容を報告する機会を設け、研修内容の共有を進め、教員全体の資質向上に努めた。また、テーマを設定した園内研修も実施した。 ・公開保育において外部評価者の率直な意見を聞くことができ、今後の教育内容の検討に役立てることができた。 ・公式WEBサイトに加え、Instagramを活用して情報発信に努め、保護者及び一般の方へ教育内容の周知を図った。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
教育力向上へ向けた取り組み	教員の自己研鑽を推進するため、園内研修の充実と研修会（全日幼、大私幼、近研関係、大阪府私学課、大私幼プロジェクト、ちゃいるどネット他）への積極的参加を推進し、引き続き

	き、教員の教育力向上を図る。 学年ごと、経験年数ごとなどで教員をグループ化し、各グループで意見交換を行うことにより密度の濃い会議を実践して、日々の保育を振り返りながら、改善点の早期発見と改善策の検討を進め、全体の職員会議へとつなげ、教育力の向上を図っていく。 一方で、教職員間の情報共有を進め、個人の問題点を幼稚園の問題点として捉えながら、公開保育の結果を踏まえ、全教職員で改善策を考え、教育内容の充実を進めていく。 また、引き続き、働き方改革にも取り組むとともに、公開保育も実施し、外部評価者の意見を取り入れていく。
保護者との効果的連携の推進	幼稚園に対する保護者の期待や要望を保護者懇談会、保育参観、子育てサロン及び担任等を通じて把握し、保護者の求める幼稚園像を確認しながら、建学の理念や教育方針に基づく教育を実践していく。 公式WE Bサイトや Instagram を用いてタイムリーに情報発信を行い、保護者から寄せられる感想や意見等をもとに保護者との連携強化を図っていく。 定期的に保育参観を開催し、日常の保育の様子を公開する機会を継続して設けるとともに、土曜日実施の行事など就労中の保護者も参加しやすい行事を継続して実施する。 保護者会活動に対しては、保育に支障がない限り、施設利用等の協力を行い、活動を支援していく。
安全管理マニュアルに基づく 防災・防犯体制の確立	安全管理マニュアルは、状況に即して随時更新する。 学期毎に避難訓練を実施して、震災やゲリラ豪雨等の自然災害を含む大規模災害に備え、全教職員が園内の避難経路及び各自の役割分担を確認し、自覚を持って行動できるようにする。 引き続き、東大阪市や布施警察署と連携した交通安全教室や防犯訓練を実施し、安全や防犯に対する意識の向上を図る。 法人本部危機管理担当及び大阪商業大学の警備員とも継続して連携しながら、園児が安心して園生活を送れるよう、幼稚園周辺の定期的な巡回、危険個所の把握及び教職員間の情報共有を行う。
特別支援教育の充実	支援を要する園児の保育は、専門家の助言等を取り入れて実践していく必要があるため、今後もキンダーカウンセラーと教職員との意見交換や研修を充実させる。 また、保護者の相談にも対応するため、引き続き、キンダーカウンセリングの活用を促進し、併せて、保護者に対して園児への「気づき」を促す取り組みを実施する。 園児の発達や遊びの様子を把握し、園児と保護者へ適切な対応を行うため、教員の確保を含めた体制を整える。 教員が積極的に外部研修へ参加し、園内研修を通じて研修内容の周知を図る一方で、公的機関と連携し、支援を要する園児の成長を促していく。

地域・系列校との連携	これまで積み上げてきた地域とのつながりを大切にし、さらなる相互理解を深めるため、「おひさまフェスタ」などの諸行事などを通して積極的に地域へ働きかけ、幼稚園の活動、行事等への理解が得られるように努める。 また、幼小接続に関して、東大阪市や近隣小学校との連携をこれまで以上に充実させていく。 引き続き、大阪商業大学の施設の利用、大阪商業大学高等学校デザイン美術コースとの連携による木製パズル制作及び大阪緑涼高等学校保育系進学コースとの連携など、系列校との連携の充実を推進する。
子ども・子育て支援新制度への対応	入園に際して「認定こども園」との併願者が存在することから、本園の特色や強みを伝え、併願者が本園を選択し、入園に至るよう取り組んでいく。 また、「認定こども園」への移行について、研修会への参加及び東大阪市並びに近隣幼稚園への聞き取り等を行い、引き続き、情報収集を進め、検討する。

6. 学校関係者からの評価

★学校関係者評価(評価委員会:令和8年7月 15 日実施)

◆保育全般に関して、以下のような評価をいただいた。

- ・伸び伸びと遊び、主体性が育まれ、子どもの意見が行事にも反映されている。
- ・子ども同士の話し合いを重視して、子どもの「やりたい」という気持ちを引き出し、その気持ちを大切にしている。
- ・「野菜栽培」「田植え」「たき火」「足湯」「やきいも」「どろんこ遊び」「餅つき」「昔の遊び」など、家庭では経験できないことが経験できる。
- ・動物や昆虫の飼育を通して、「命」を学ぶ機会が設けられている。
- ・「おひさまフェスタ」など、地域の方も参加できる取り組みもあり、地域とのつながりを感じる。
- ・多様な避難訓練が行われ、子どもにも安全確保に対する意識が育っている。

◆改善すべき点として、以下のような意見をいただいた。

- ・園の行事が多いと感じるので、縮小できるか検討すべきである。
- ・誕生会の日も14時保育とすべきではないか。
- ・参観だけでなく、オープンデーのような自由に子どもの様子を見学できる機会を設けてほしい。
- ・自転車置き場について、拡張や屋根の設置を行うなど、改善してほしい。
- ・自動車で送迎できる駐車場を確保すべきである。

★公開保育の実施

令和7年9月に公開保育を実施し、専門家、他施設の教育者、保護者の代表に参加いただき、以下に示す多くの評価や助言を得た。

◆評価いただいた点

- ・好きな遊びの後の片付けでは、子どもたちが皆で声をかけ合っており、助け合いの心が育っていると感じた。
- ・気付きと学び、空気を読む力、周りを見て気付く、周りに合わせる力も育っている。

- ・園庭は、在園時の良い思い出となる。
- ・子どもが自分のやりたいことを選択し、工夫する力が育つ保育だと感じた。
- ・当番活動も自覚を持って取り組んでいる。
- ・子どもたちが、大人とのコミュニケーションに慣れている など。

◆今後に向けた助言等

- ・惰性に流されることを避けるため、「静」と「動」の切り替えがあっても良いと思う。
- ・ホールなど広い場所で子どもたちが遊ぶ場合、道具入れの裏側など、死角がないように気を付けるべきである。
- ・それぞれの保育内容について、「ねらい」を確認したうえで取り組むべきである。
- ・環境の面では、保育室の整理整頓が必要な部屋もあった など。

上記の関係者評価を真摯に受け止め、慣れ合いになることなく、より良い保育・教育を目指して各事業を推進する。

また、公開保育を通して、本園の保育を見つめ直すことができた。これを良い機会とし、より一層、保育や子どもたちの育ち、姿について話し合い、保育の質を高めていきたい。

7. 財務状況

学校法人谷岡学園として、監事及び会計監査人監査により、適正に運営されていると認められている。